



令和6年4月1日  
園長 飯田 美弥

## 令和6年度 港区立にじのはし幼稚園経営計画 —主体性を発揮して みんな笑顔の幼稚園—

### 1 教育理念（生きる力の基礎を育む幼稚園）

#### 公立幼稚園の使命

- 幼児期にふさわしい生活を通じた質の高い教育を実践する幼稚園
- 地域・保護者ととともに子どもを育てる幼稚園
- 教職員が専門性を高め合い協同（働）する幼稚園

幼稚園は学校教育の始まりです。幼児期の学びは、幼児を取り巻く「人・物・こと」のすべての環境と関わり、直接体験である遊びや生活の中で展開される自発的な活動を通して行われます。一人ひとりの幼児がもつ、生まれながらにして自然に成長していく力と周囲の環境に能動的に働き掛けようとする力を支え、安定した情緒の下で自己を十分に発揮すること、幼児期にふさわしい生活が展開されることを基本に、心身の調和のとれた発達の基礎を培います。

幼稚園教育要領・学習指導要領では、幼児期から高等学校卒業までの学校教育全体において育成すべき資質・能力の3つの柱が示されています。幼稚園では、それぞれの資質・能力を個別に育てるのではなく、遊びや生活を通して一体的に育てていきます。また、地域の公立幼稚園として、子どもたちが暮らす地域の環境や人との関わりを深め、家庭と協力して教育を進めてまいります。

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が含まれている幼児の具体的な姿としての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校教員と共有し、子どもたちの「育ちと学び」をつなげていきます。港区立幼稚園の教職員として、常に学び、互いに専門性を高め合い、小学校以降の教育と連携し、地域の幼児教育をリードしていきます。

#### 幼児教育において育みたい資質・能力（生きる力の基礎を育む）

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、  
分かったり、できるようになったりする  
「知識及び技能の基礎」

気付いたことやできるようになったことなどを  
使い、考えたり、工夫したり、表現したりする  
「思考力、判断力、表現力等の基礎」

遊びを通して一体的に育む

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を  
営もうとする 「学びに向かう力、人間性等」

## 2 にじのはし幼稚園の教育目標（令和6年度の重点）

しなやかでたくましい子 人も自分も大切にする子 自分で考え行動する子

にじのはし幼稚園に通う子どもたちを、教育目標に向かい、遊びや生活を通して総合的に育てていきます。今年度は「自分で考え行動する子」を重点とし、子どもたちの主体的な遊びを通して、資質・能力(生きる力の基礎)を豊かに育てていきます。

## 3 幼稚園経営の方針

- ・全ての幼児を、教職員全員で育てていきます。
- ・幼児、保護者、地域との信頼関係を基盤に幼児の学びを支えます。
- ・教員同士のカンファレンスを通して幼児の姿から幼児の内面を深く捉え、発達に必要な環境を整えます。
- ・幼児の実態や発達、時期にふさわしい感動体験を積み重ねることができるようになります。
- ・小・中学校、保育園との交流・連携を進め、地域の公立幼稚園として幼児教育と小学校教育の円滑な接続を進めます。

<主体性を発揮する子ども・保護者・教職員像>

### 主体的に遊びや生活に取り組む子ども

- ① 幼稚園生活を楽しみ、明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう子ども
- ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする子ども
- ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する子ども
- ④ 身近な人と親しみ、関わりを深め、一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ子ども
- ⑤ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける子ども
- ⑥ 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、生活に取り入れようとする子ども
- ⑦ 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする子ども
- ⑧ 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう子ども
- ⑨ 人の言葉や話などをよく聞き、経験したことや考えたことを伝え合う喜びを感じる子ども
- ⑩ 絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる子ども
- ⑪ いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ子ども
- ⑫ 感じたこと考えて事を自分なりに表現して楽しむ子ども
- ⑬ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ子ども

#### 子どもの自己肯定感を主体的に育む保護者

- ① 子どもの思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる保護者
- ② 生涯発達の鍵となるアタッチメントを築き、安心・安全の基地となって子どもを支える保護者
- ③ 学級の子どもたちの成長を先生や保護者同士で喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に理解や協力をし、園や地域と共に子どもを育む保護者

#### 教育の質の向上を実現するために主体的に努力する教職員

- ① 心身共に健康で、明るく笑顔で、さわやかな教職員
- ② 相手の状況、思いに気付き、考え、行動できる教職員
- ③ 社会人として、教育公務員として責任感、情熱、使命感をもつ教職員
- ④ 幼稚園全体の子どもたちを、教職員全員で育てる意識をもち、協同（働）する教職員
- ⑤ 自ら資質を高め、研究と修養に励み努め、指導の改善・工夫をする教職員
- ⑥ 子ども、保護者に真摯に向き合い信頼される、専門性をもつ教職員
- ⑦ 地域と幼稚園を愛し、保護者や地域と連携・協働する教職員
- ⑧ 柔軟な発想をもち、働き方を見直し、改善や効率化に取り組む教職員

## 4 経営の重点

### 中期的目標（2年間を目途に取り組む目標）

- (1) 一人ひとりの基本的人権を尊重し、発達の特性に応じた個別最適な学びを実現させ、教育目標の達成を目指した教育活動を推進し、生きる力の基礎を培います。
- (2) 教職員一人ひとりが、教育目標や経営方針を自分の課題として捉え、組織の中での役割を意識し、相互に協力、学び、成長し合い、総合力を発揮し、園全体の幼児を育てる教職員集団を形成します。
- (3) お台場アカデミー学校運営協議会を推進し、お台場学園港陽小学校・港陽中学校、地域、保育園との密接な連携を図ります。また、地域との関わりの中で育つ教育環境を構築し、地域とともにある幼稚園を推進します。
- (4) 保育園との交流・連携を進め、同じ地域に暮らす幼児同士の関わりを深めるとともに、地域の幼児教育の質の向上、小・中学校との交流、連携、接続において、リーダー的役割を果たします。
- (5) 働き方改革を推進し、教員が心身共に健康に生き生きと働くことができる職場環境に向け、園長のリーダーシップの下、教職員一丸となって行事や仕事内容の精選・業務改善を行います。

## 今年度の主な取り組み

- (1) 健康な生活リズムと習慣、基本的な生活行動が身に付くようにします。
  - ① 「基本的な生活習慣の形成」、「清潔・安全への習慣や態度」、「早寝、早起き、朝ごはん」、「危険予測や回避能力の育成」など、健康で安全な生活のため、見通しをもち自立的に行動できるよう、視聴覚教材等を活用し、分かりやすく丁寧に指導します。また、家庭への啓発や連携を図りながら、幼児の健康・安全への意識を高めます。
  - ② 健康な心と体の育成に向けて、心と体が動く心地よさや楽しさの体験・基本的な動きの獲得を重視しながら、発達に即した運動遊びや戸外遊びの工夫を行います。
  
- (2) 幼児の自発的な活動としての遊びを十分に確保し、幼児期にふさわしい生活を通して「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育みます。
  - ① 遊びに没頭し、心動かされる多様な体験の中で、幼児が様々な感じ、気付き、考えたことを表現する経験や、試行錯誤・振り返りの経験を積み重ね、豊かな感性と創造性を育み、思考力の芽生えを培います。
  - ② 長期・中期・短期指導計画作成の際の観点（幼児の発達の過程・興味・関心・行事・季節等）を考慮し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置きながら、幼児の体験の質が高まる援助や教材の工夫、幼児と共によりよい教育環境の構成をし、主体的・対話的で深い学びの実現を図ります。
  - ③ 幼児との基本的信頼関係を基盤に、一人ひとりの行動と内面への理解を深め、幼児の心の動きに沿って保育を展開し、発達の特性に応じた個別最適な援助や指導を工夫します。
  - ④ 人と関わる直接体験を通して、社会生活に必要な約束や決まりを守ることの必要性を感じられるようにし、自立心や他者と心地よく生活するための道徳性・規範意識を育みます。
  
- (3) 少人数保育における教育内容の充実を図ります。
  - ① 異年齢交流を通して多様な人と関わる機会を保障し、関わりを広げながら互いに育ち合う関係を築きます。遊び・文化を継承するとともに、豊かな体験や学びにつながるよう環境を工夫し、異年齢保育の充実を図ります。また、その実践を通して、教職員が共に学び、指導力を高めあう機会としていきます。
  - ② 各担任が学級の幼児数を考慮した経営・保育内容・教材などを研究・実践し、同僚性を発揮しながら、組織的・計画的に教育の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントを実施します。
  - ③ 一人ひとりの幼児に応じた指導ができるよう、スクールカウンセラー・介助員等と連携を図り指導を行います。幼児が安心して自己発揮できるよう発達や特性、困難に応じた支援や保育の工夫を組織的・計画的に行い、幼児の豊かな人間性を育みます。
  
- (4) 教材や行事を工夫し、心動く体験へとつなげ、豊かな学びを保障します。
  - ① 幼児が主体的に場や物、人に関わって遊ぶ環境の構成を工夫し、幼児の興味や関心、発達や時季を

踏まえた教材を開発します。絵本や行事、幼児の実体験など体験の多様性と関連性を踏まえた環境を意識し、学びが深まる豊かな体験を保障します。遊びの伝承や多様性、質の確保に向け『にじっこタイム』を設定し、異年齢交流の充実を図ります。

- ② 絵本や物語等に親しみ、言葉に興味・関心をもち、豊かな言葉や表現を身に付けていくことができるよう、担任による日常的な読み聞かせや「お話会」を開催し、多様な題材や語りに触れることができるようにします。
- ③ 直接的・具体的体験をさらに豊かにする ICT 機器の活用について研究し、一人ひとりの自発的な遊びを支え、好奇心を喚起し、主体的・協同的な学びにつなげます。
- ④ SDGsの目標14・15の海洋資源や陸上資源を重点に、発達段階や季節に合わせて、生き物との触れ合い、植物の栽培や収穫、園庭の自然物の活用や近隣の公園・海での自然体験や親子清掃活動などに継続的に取り組み、自然を愛する気持ちを育み、命あるものを愛おしむ気持ちの芽生えを培い、社会貢献の意欲や自尊感情を高めます。
- ⑤ 季節の自然や生き物との直接体験を重視し、飼育栽培。にじっこ池(ビオトープ)の活用、地域の環境を活かした活動などを意図的・計画的に行います。講師(海博士・生き物博士)を招聘し、助言を環境の改善につなげたり、幼児が身近な自然や生き物への興味・関心を高めるきっかけとしたりします。

(5) 日本の伝統文化や他国の文化に触れ、国際理解につながる経験を充実させます。

- ① 学校2020レガシーの「日本人としての自覚と誇り」を重点とし、季節の伝統行事やお茶会など、伝統文化に触れる機会を大切に、日本文化の良さを感じさせ、小中につながる国際理解の意識の芽生えを培います。
- ② 国際理解の意識の芽生えを培うため、幼稚園ネイティブティーチャーと連携し、自国・他国の文化や英語に触れる活動を実施し、異文化への興味をもたせ、異なる文化をもつ人々への受容や共生への態度・能力の基盤を育成します。

(6) 社会に開かれた教育課程を推進し、幼児教育の質に関する認識を社会と共有します。

- ① お台場学園港陽小学校・港陽中学校、公私立保育園との連携を図り、保・幼・小中で学びの連続性を重視した教育を推進し、地域の幼児教育の質の保障と専門性の向上において、リーダー的役割を果たします。
- ② 学校運営協議会と連携し、地域と共にある幼稚園教育を推進します。地域との関わりの中で子どもたちが育つ教育環境を充実させ、幼児期の学びの特性を地域・家庭・小中学校と共有します。

(7) 研究の推進し指導力の向上を目指すとともに、働き方改革を意識して職務に取り組みます。

- ① 質の高い幼児教育に向け、研究テーマを「体験や学びを支える環境の構成や教師の援助を探る～小規模園における異年齢交流を通して～」とし、教員の実態に合った計画的・効果的な研究を推進し、指導力の向上を図ります。
- ③ 幼小のカリキュラム接続に向け、保幼小の教員で“育てたい子ども像”を念頭に研究保育・授業等を実

施し、互いの教育の理解を深化させます。「架け橋期の教育」への意識を高め、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「5歳児指導ポイント集」を活用し、学びの連続性に向けた教育環境を工夫します。

- ③ 「港区教職員の働き方改革実施計画」に則り、業務改善及び計画的な職務の遂行により、ワーク・ライフ・バランスを実現し、心身共に健康で生き生きと職務に取り組めます。

(8) 子どもたちの姿や育ち、教育資源を、保護者・地域と共有します。

幼児の教育は、幼稚園・家庭・地域で連続的に行われています。家庭・地域の皆様に、幼稚園の取組を理解していただき、幼児の姿や育ちを共有することは、幼児の望ましい発達の循環につながります。

- ① 家庭や地域に、保育参観・保護者会、便り、ホームページ、X等で、園の教育方針や教育内容、幼児の育ちを分かりやすく伝えながら、連携して幼児を育み、幼児期の学びの特性や教育の質について理解を促します。
- ② ホームページ、緊急配信メール、コドモンを活用し、幼稚園からの情報を迅速に伝えます。
- ③ サポート保育や未就園児の会、園庭開放、にじっこ図書館での地域の未就園児親子への絵本貸し出し、心の子育て講座の開催など、保護者や地域の実態に応じて、創意工夫し子育ての支援を行います。

(9) 取組みについて評価を行い、保護者・地域に報告し、よりよい教育の充実に努めます。

今年度の教育課程の実施状況について評価し、改善を図ります。

- ① 幼稚園公開、行事等の実施後に、幼児の取組の様子や成長、保護者の感想などを基に即時に評価を行い、次年度の実施に生かされるようにします。
- ② 学期ごとの評価、遠足や交流といった項目ごとの評価を行い、年度末の学校評価につなげます。
- ③ 今年度の取組について、子どもアンケート、保護者アンケート、学校運営委員会委員アンケート、教職員アンケートを実施し、自己評価を行います。それらを基に学校運営協議会に評価いただき、今年度の学校評価として次年度の教育課程に生かします。学校評価は、保護者会、ホームページ等で保護者・地域の方々に報告をします。